



色を、その心を、美しく、ムチとした小さな脚が、細
 細かに張りつた膝蓋のまはりに美しきやうな小栗色の脚
 の細い、そして自然な色はともて美しくすわわわと、こ
 のこまかい、人指しはばくしくと心地よくはなはた
 みるゝものゝあわかしき脚が、何となくいゝロマンスを
 ながて行くブラットホーーム。

現れると、初めはげに附がつていゝ人間を、盗んであ
 らうと、處女あふあうと、チラス者、青鹿鹿、各探偵、愛慾の王者、性根狂人、何れもかゝる所のよ
 りは、アムステルダムとひとふしと、人生の如くはなし
 1行。ブラットホーームは天然の出入口かも知れない
 アリとその夜のブラットホーームは？

「わい、来い。」
「え、期を、決しあふよ。」
「エミちゃん行く。」
「わい、行つて来、失礼してよ。」
「みんな入て行きなさい。」
「いやはは、おれは。」
「だつて、何んだか。」
「じつて、いない。」
「ガッ。」（ドートエンザンの
間一髪。この三人の間をよぎつて
車内へ、健幸、電車のはずは
いじくして、なまけなかな
の。）
「お馬鹿さん、意には冒険がつか
りもの。」
「おれ、驚いてゐる、五つと
とれものに、変なやが、僕び
で切つてゐないやがった。エミ子
面白く、おれ、一度出て
こかけてゐないや、おれ。」

642



夜のプラットホーム

プラットホーム、あのお白粉のはげた、女の肌のような色、その上を、美しい、ムチッとした色々々な脚が、絹靴下に張り切った雄鹿のような美しさや、小麦色の脚の娘さん、その自然色はとも美しいですわとおっしゃる、キメのこまかい、人指しゆびではじくと、心地よくはすみ返るあのやわらかい脚が、何かかなしいロマンスをなげて行くプラットホーム。

ときどき死刑執行人のような電車が、わめきながら現れると、腹だちげに群がっている人間を、強盗であらうと、處女であらうと、チブス保菌者、毒殺魔、名探偵、変態心理者、性慾旺盛夫人、何もかも紙屑のようにはまるめてのみ込むと、ゴッ然とすてばちの如くはしり行く。プラットホームは人生の出入口かも知れない。アーその夜のプラットホームは？



絵と文・小野佐世男
写真・杉山吉良

1

「ねー 来いよ」
「……」
「モー動くな、決心しろよ」
「エミちゃん行く」
「私！ 行っちゃ、失礼でしょう」
「あんた一人で行きなさいよ」
「いやーね」
「早くはいれよー」
「だって、何んだか」
「じれっといナー」
「ガラッ」 (ドアトエンジンのしまる音)
「とたんに一人の男、飛びこんで、間一髪、この三人の間をよぎって、車内へ、電車、電車の姿は暗にすわれて行く。いくじなし、なぜ行かなかったの」
「お馬鹿さん、恋には冒険がつきものよー」
「チエッ 縁起でもない、Kさんと私の間に変なやつが飛びこんで切つないやがった。エミ子面白くないや、モー一度出でどこかで飲みなおそうか」



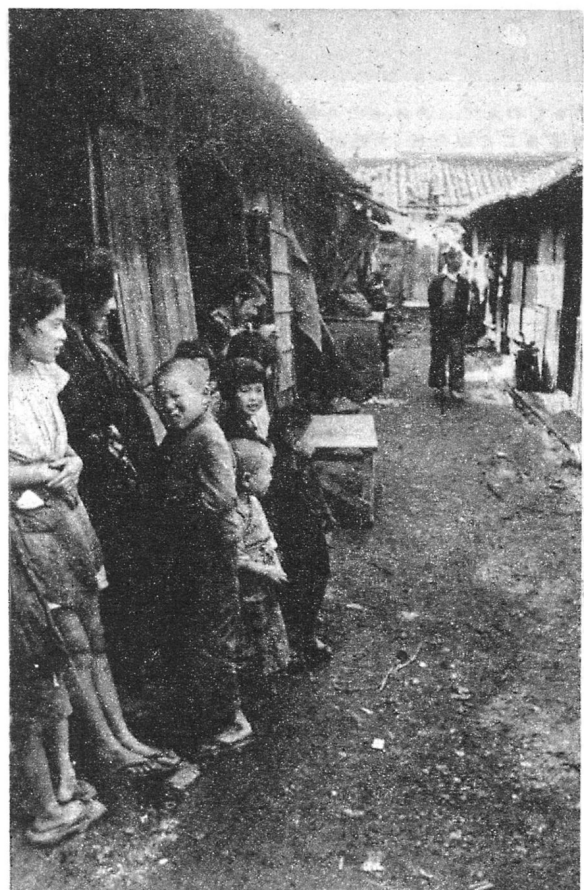
生きている封建主義

部落の人たちを別扱いする間は、日本が民主化されたとはいえない。とテレプレスのデーン氏という。奈良市西野坂町は部落の人たちの町だ。デーン氏の眼に映った西野坂町をカメラで捉えた記録

数日の滞在でデーン氏は、町の人気者になった。

西野坂町の全景。この町の人々が自由に外部の者と結婚できた時こそ、日本が民主化されたといえる。

本通りから入った露路。人々はインフレの苦しさや戦い、同時に相変らずの特別扱いと戦っている。





高田の報恩講

農村の女性が、高田の町にくるのは、年に二度、賃仕事の雪掘りと、秋の報恩講の時だ。上の写真は、田の仕事の出来ない冬の間、男たちと一緒に、雪掘りに来ている所。下は、秋のお彼岸、報恩講の行事。雪と農作業、家庭の雑務におわっている農村の女性にとって、この日はおおびらで家をあけられる日だ。



雪の多いことで有名な、新潟県、高田市は、人口三万八千、そこに百三十もお寺がある。毎年、秋のお彼岸になると、近い所は、日本海に面した魚村から、遠いところは、十五里もはなれた、糸魚川辺から、こゝにある東本願寺の、報恩講という、法会に集まってくる。

集まってくるほとんども、おばあさんだ。秋の取入れを前にして、ばあさんたちは、行かない人から饞別をもらい、お米一升と、毛布、それに雪国特有の、縮緬子を背負い、何人か連れだってやってくる。昔、汽車のない頃は、三日がかりで、五・六里の道を歩いて来たそうだ。

本堂から、まっすぐつづいて、門前町の、しもたやは、毎年くる客の宿に早変わりする。「見せものは何かが、ついているかね？」ばあさんたちは、荷物を下しながら、先ず、こう聞く。

宿の前には、露店がずらりと並び、出がけに、ちゃんと言画をたてて来た、饞別をくれた人や、孫へのみやげを買いに出る。どこに行っても、果物のはんらんだ。安いリンゴは、百匁八匁位。ばあさんたちは、人波にもまれながら、一町余りの店前を往復して、こゝより、あつちが安いと思うとその店に行き、どうも、さつきの店の盛りがいいと思えば引返し、一番安い店を見つけて買う。たべもの屋でも、同じ金なら、

東北（満洲）

農民の耕地をまもって、さらに展開する新作戰に出発する人民解放軍である八路軍と解放された農民（手前）ながい間の軍閥の支配とうち続いた戦乱の中から新たに生れ変わった中國の姿



（山西省にて）

地球は一つ、世界は二つ。どうなることかと気が配てないのが人民諸君、というより全人類諸君と云うのが、このごろのありさまである。よろしい。おたがいさま日本人と生まれついたのでから一つ手近な東洋の二つの世界でものぞいて明日に備えよ、だ。

「王道樂土」の近況報告

東洋の北の方からはじめる——とすると、東北（満洲）だ。

一九四五年八月十五日、はかなくも消え去った、カイライ傳儀さんの「王道樂土」の後に、近ごろはんものの「王道樂土」が出来かかったようだ。

日本関東軍壊滅、ソ連軍撤退、あとは「こつちのもの」とばかり乗りこんだ、人民解放軍が「土地を農民へ」をスローガンに、人民政府をあちこちにつくったのが、事のはじめである。

「只はど安いのはない」からみんな喜んだ。十余年も日本軍と役人と偽政府にいためつけられていたお百姓のことだから無理はない。松江、黑龍江、合江、嫩江の四省だけでも、五、〇〇〇万畝（約三千万反）。牛馬四〇万頭、衣料五二〇万着が、地主、その他から没収されて、農民に分配されたそう。

だから、東北でも、只でもらった人——全農民の九〇パーセントは「こいつは王道樂土じや」と、ニコニコしたわけである。

人民解放軍という名は、近ごろの話。終戦直後まで、馬賊、バルチザン、匪賊などと呼ばれたものも、たくさんあったが、中國共産党の八路軍がやって来て、一つにまとめてからは、名実ともに、人民解放軍になったと、たいていの

コーリヤン島から顔を出しているのは中國共産党・八路軍の兵士。今年中には楊子江を渡り國民黨政府軍。決定的な打撃を与えようとしている。



引揚者が語る。

今では、この人民解放軍が、雪ダルマのように、大きくなつて、政府軍を圧倒してしまっている。生き残りの日本將校連や、資本家諸君は、甚だもつて口惜しいにちがいない。

日本人の入りこんでいた佳木斯、牡丹江なんかすっかり様子が変わった。近ごろの奇觀の一つは、都会の資本家が解放された政府所有の未開拓地にどんな資本を注ぎこんで大農場経営をはじめたことだ。政府いわく

「資本家の投資を歓迎いたします。政府の土地に投資されたかたは、農業税以外のすべての税金をおまけしますし、二十年間の土地使用権を保証いたします。勿くものにとつても働き口ができたというものである。

個人経営のほかに政府指導の集團農場もたくさんできた。合江省だけで二九農場。嫩江省内の集團農場経営面積一五万畝（九〇〇〇町）になったという記録がある。農具改良もやっている。農場の中に農具工場をつくって製造する



農民の生活の低さ、そこから蛔虫のはびこる原因が生まれる。早くこの暗い生活をうちやぶって、「むし」のいない村にしなければならない。



野良から歸って仲よくお茶をのむ老夫婦。だが、そうやって手でたべては危険。「むし」の卵は、たたみのほこりのなかにもいるのだ。

文明国のなかで、ニッポンほど蛔虫の多い国はない。この理由はどこからくるのか？

貧乏とはらのむし

なお、蛔虫は一つの薬にたいしては、しだいに抵抗力をもつてくるので、ときどき、薬をかえてのむ必要がある。また、二、三の駆虫剤をいっしょにのむのがよい。そして、一時に大量のんで、すっかり出してしまふことが大事で、半年に一回の駆虫が必要である。

この他、しょうぶの根のせんじたもの、またはナマですりおろしたものを、サンショウの実（タネのはしたものを一日五〜八瓦これを粉にまたは浸剤にして用いる）ヨモギ、ソバの茎の煎汁などもよいとされている。これらは、ごく手にはいりやすく、誰にでもすぐつくめるから、家庭薬としてひろくすすめられるものである。

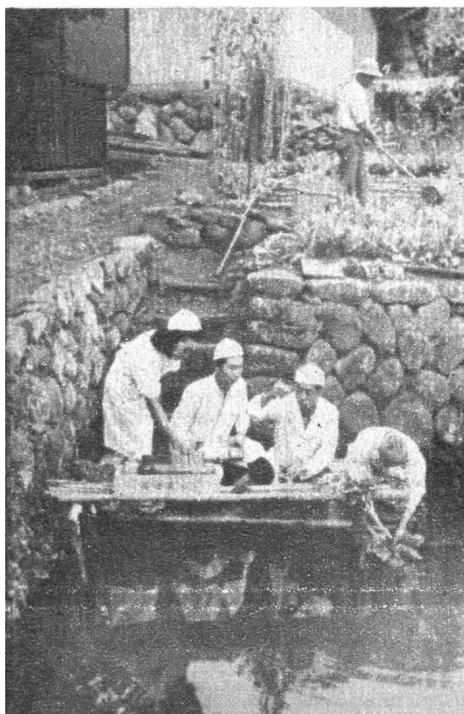
手にはいりにくい今日、これにかわる良い薬として、ムギワラの煎汁がある。これは、なるべく新しいムギワラをこまかくきざんで、約十倍の水で煮るのだが、これを30パーセント（約3）までに煮つめてガーゼでこすと、煎汁がでる。これは、濃いものを大量のまなくてはならない。

虫下しとしては、サントニンが手にはいりにくい今日、これにかわる良い薬として、ムギワラの煎汁がある。これは、なるべく新しいムギワラをこまかくきざんで、約十倍の水で煮るのだが、これを30パーセント（約3）までに煮つめてガーゼでこすと、煎汁がでる。これは、濃いものを大量のまなくてはならない。

菜っぱを洗ったり、食器を洗ったりするため池。だが、雨が降れば上の畠のこやしがみんな流れこむ。

菜っぱにはこやしがじかにかかるから、カブのどころを2.3寸きりおとし、1枚1枚よく洗うべきだ。

いろいろな便所や野溜の糞尿の虫卵けんさをしてまわる病院の調査班、「ここにも沢山いそうだね」





朝鮮

S字型のあぜ道のついた朝鮮の水田

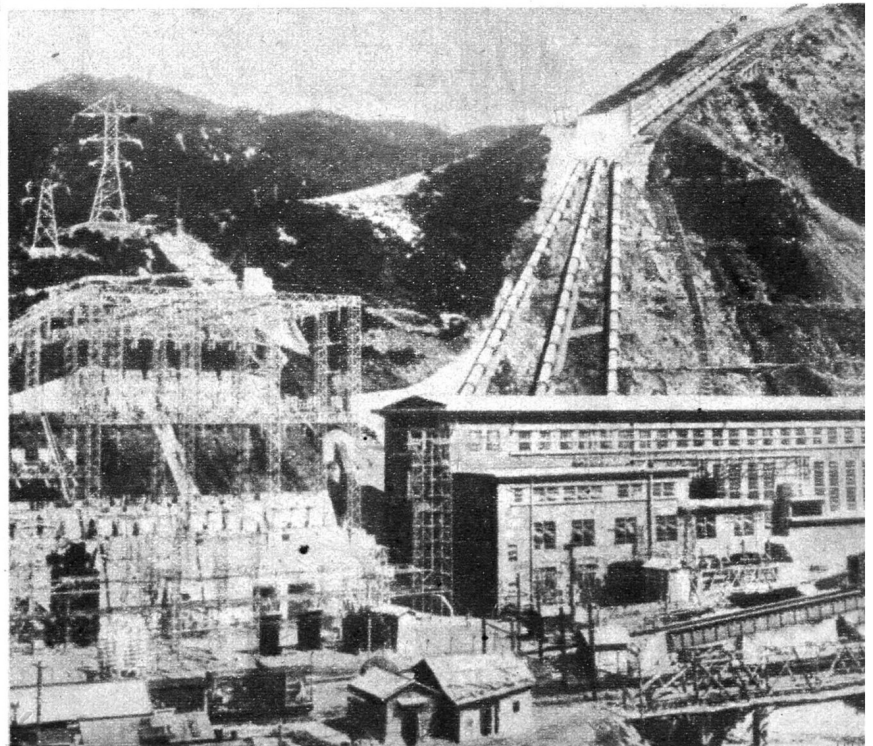


大韓民国大統領（南鮮）
イー・スンマン（李承晩）

に、道知事制度、郡守制度のふる
い統治機構がふたたびつくられて
今日におよんだ。
その間、北では、土地は農民の
手にかえり、重要産業は國有國營
となった。そして北鮮の各工場が
人民工場となって、復興再建の煙
を吐いているとき、南鮮では「土
地を農民に与えろ」「重要産業を
國有化しろ」のスローガンをかか
けて、血なまぐさい人民の抗争が
くりひろげられている。
二つの世界は、ここ朝鮮におい
て、もつともよくその縮圖がえが

京城の銀座にあたる鐘路の通り
で、二人のマクワ売りが、大ケン
カをやっている最中に、ブーとお
ひるのサイレンがなる。二人はハ
ットおどろいて、まわりの日本人
に氣をくばりながら、つかみあい
をやめ、一分間の東方遙拜をやる
そしてサイレンが終ったが、いま
さらケンカをやりなおすのもきま
りが悪く、なんともいえない奇妙
なカッコウをして、顔を見あわせ
ている。
これは旧総督統治時代に、よく
みられた植民地朝鮮の風景の一つ
である。その朝鮮も解放三年をむ
かえて、今大きく動きつつある。
一九四五年八月をもって、日本
の朝鮮統治がおわると、朝鮮人民
は、ものすごいいきおいで長いヨ
クアツからはねかえった。革命志
士たちの歓迎、親日派の肅清、そ
して里・面・郡・市・道と、いた
るところに臨時人民委員会が組織
され、一時は全鮮にわたって完全
に一切の地方行政権をにぎった。
だが、運命の三八度線を境に、そ
の後、北は人民委員会がそのまゝ
発展し、南では人民委員会の代り

全鮮の電源をにぎる北鮮の発電所





朝鮮人はあいかわず差別された生活をおくっている。これは日本の支配層が動労大衆の不満のほこさを異民族排撃によってそらせるための政策だ。われわれは早くこの事実をめざめて朝鮮人と手を握りあわねばならない。



新しい中国の文化



二人は愛しあっていた、だが二人の幸福は、この忌しい戦争が続き日本軍がいる限り阻まれるのだ。彼の前には進んで行くべき道は一つしかない。



輝かしい中国の民族オペラ「白毛女」。張家口で上演された時の舞台面である。

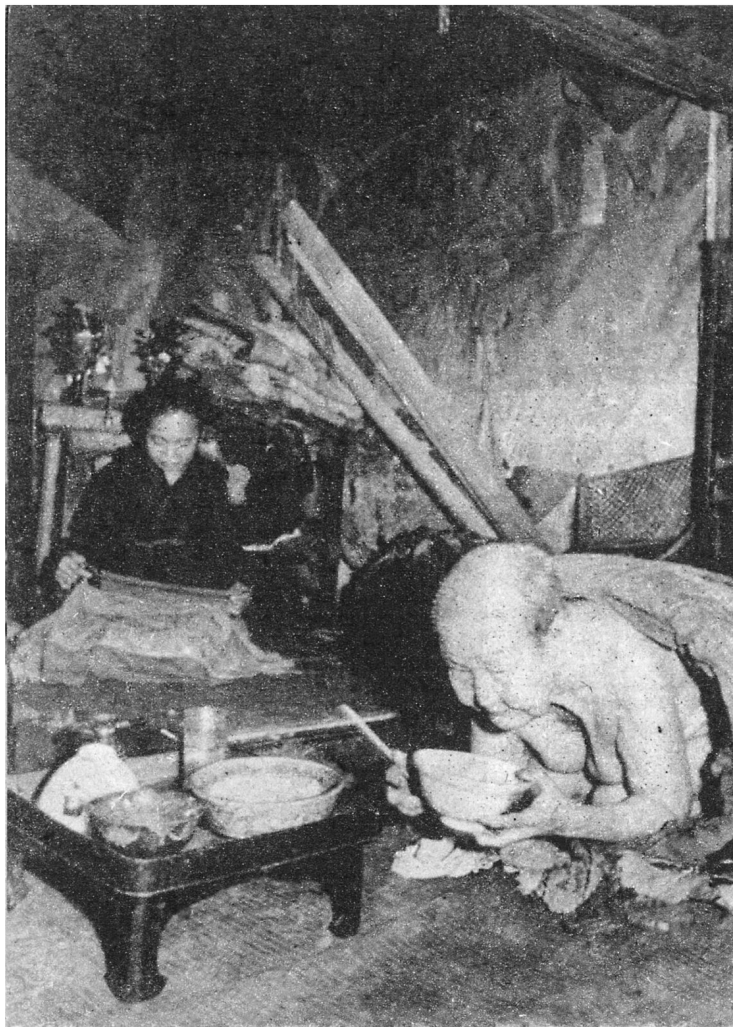


くれ、夜ごと悪鬼となつて脅迫する。榮養と太陽にあたらぬため、娘の髪の毛は白くなつてしまつたが、この「白毛女」は日本軍が村を占領し、地主が漢奸となつても不屈の抵抗をつづけ、ついに八路军の入村によつて「白毛女」が地主の旧悪をあばき、勝利の歌が村にあふれた、という物語である。

中国民衆の血潮から生まれたこの村芝居は、村人の胸をうち、心ふれ、村から村にと上演された。一九四五年八月に人民解放軍が張家口に入城してからはじまつた新しい市政建設につれて「白毛女」は、はじめて電光まばゆいフットライトをもつた近代的な舞台の上に上演された。

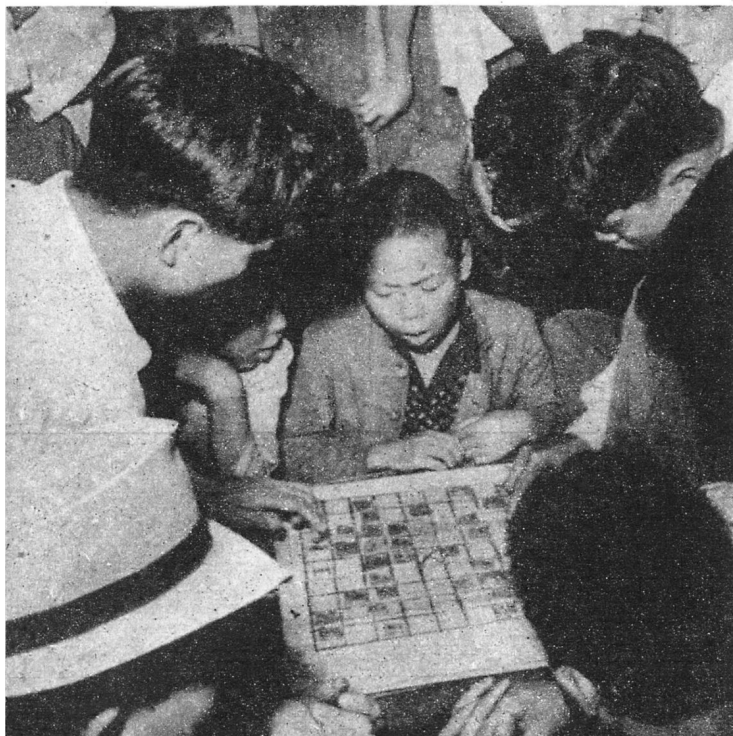
四、五年前の戦争の末期に近いころのことである。中国の北方の農民のあいだに「白毛女」という草芝居がはやってゐた。これは、太岳山区の一寒村におこつた実話からとつた一種の農民解放、抗日宣傳劇で、はじめは実話の主である娘がそのまま舞台に立つたものだ。筋書は、地主にうられた貧農の娘が子を産んですてられ、その恨みをはらすため穴にかくれ、夜ごと悪鬼となつて脅迫する。榮養と太陽にあたらぬため、娘の髪の毛は白くなつてしまつたが、この「白毛女」は日本軍が村を占領し、地主が漢奸となつても不屈の抵抗をつづけ、ついに八路军の入村によつて「白毛女」が地主の旧悪をあばき、勝利の歌が村にあふれた、という物語である。

中国民衆の血潮から生まれた 民族オペラ「白毛女」



奈良の都を、あの大佛と五重塔をつくるために一番働いた者たちの子孫がここにいます。いまなお貧窮の淵に沈んだまゝで

外の町でみるのと同じような光景だ。大人も子供もいっしょになって、差別のない人間同志の楽しいふん囲気が漂う。



「私はもうどうでもいい。でもこの子供には理由の解らぬ差別を、こんな苦しみを味わさせたくない」

「朝鮮人は堂々と朝鮮人だといえるようになりましたね。私たちも、いまにきつとそうなるでしょう。」



日本にいる朝鮮人



中でうたった民ようだ。解放後の今日、誰はばかる事なく先生も生徒も手をつないでうたえる学校があるという喜びの大きさは、民族文化を伸ばす自由がなかった、かつての悲惨な植民地・朝鮮を物語るものである。

明るい楽しい朝鮮人学校

今、日本には朝鮮人の学校が、全部で四百位あるが、去年、関西で朝鮮人の教育事件が起きるまでは、これを知っている人はほとんどなかった。

日本の政府は、日本人の学校でさえ、面倒をみきれず、生徒はガラスのない教室でふるえ、アルバイトをやらねば、その学校へも行けない有様だから、勿論、朝鮮人学校の援助をする筈がない。だから、これらの学校は、日本に住んでいる六十万朝鮮人の財布の中から、何をおいても出しあった金でできたものだ。

写真をとりに、荒川の小学校に行くと、おどろいたことには、この学校は、今まで私達がみていた日本の小学校とは、およそ違って、まったく明るく、生き生きとしていた。

一年から六年まで、全部男女共学で、自分たちのことは、すべて自分たちで解決するように、自治会をもっている。民主主義の国では、どこでもやる合議制で、男と女の可愛い議長が出て、テキパキと議事を進めていく。

この子供たちは、本当に明るくて元気だ。あまり元気がよすぎて、ときどきいたずらをするが、先生にいくら叱られても、朗らかに、嬉しくて仕方がないようだ。

植民地、朝鮮

この子供たちも、一九四五年八月、おさえつけられていた日本の民衆とともに、朝鮮人が解放されるまでは、こんな朗らかではなかった。日本人学校で、先生に叱られたりしたら、歯をくいしばって、

奴隷のなくなる国

まだ残っている人身売買



子売の家はみんな悲惨な生活をしている。この家も男の子2人と今度の事件で帰ってきているこの19の娘が栃木の農家に、上の姉妹2人がゲイ者に売られている。父親は鈴木安治とともに周旋をやったためあげられている。



サッチャン(11)の両親は引揚者だ。甘言につられて栃木の農家に子守にやられたが、あまり待遇が悪いので母親がつれ戻ってしまった。

子売

福島の人買い事件が、まだ残っている人身売買として、大きな反響をおこしているが、ある新聞に、次のような狂歌がよせられた。

子供を売る人ありとききてー

しろがねも黄金も玉もみなほしく
いらぬものは子供なりけり

まったく、生活においつめられているわれわれにとって、「子売」ことは、他人ごとではない。自分一人生きるのもやつの今日、どうして子供を産み、これを食べさせ、着せ、教育していくことが出来る。生活苦にあえぐ人人にとっては、子供を持つ喜びよりも、まず、この不安が先に立つ。

もちろん、誰にとつても、子供を産み、これを立派に成長させることは、もつとも大きな喜びであり、親にとつては、子供は何ものにもかえがたい宝である。しかし、目の前にせまる生活の困難は、この、人間のもつとも自然な愛情をうばって、子供を産むことをおそれ、子供を苦の種にしなければならぬ境地に人人をおいこむ。そこで、産児制限がやかましく叫ばれ、墮胎、棄子、子殺し、寿産院事件、一家心中、そして子売り事件と、子供をめぐる、あらゆる悲劇が、日本中、いたるところで起きているのだ。

生活苦の果、子供を抱いて投身自殺をはかった父親が、死の直前、思わず、子供を高くさしあげて、これを救おうとした、そのせつない愛情のほとばしりほど、人人の胸を強くうったものはない。

万葉の昔、「しろがねも黄金も玉もなにかせん、まされる宝子にしかめやも」

売られた子

エツ夫君(11才)は、会津若松から栃木縣の富農の家に4000円で売られてきた少年であるが、幸い主人に可愛がられて育てられている。



夜ふけのいろいろばたにボツンと、いつまでもあたたっている彼の幼い顔には、やはり暗い生活の悲しみが、どこさなくかげをさしている。



実家にいるよりは御飯もたくさん食べられて幸福になったが、やはりまだまだ日蔭の子だ。



この家の子供たちはみな学校へ行ってしまったのに、彼は学校をきらって一人で遊んでいる。

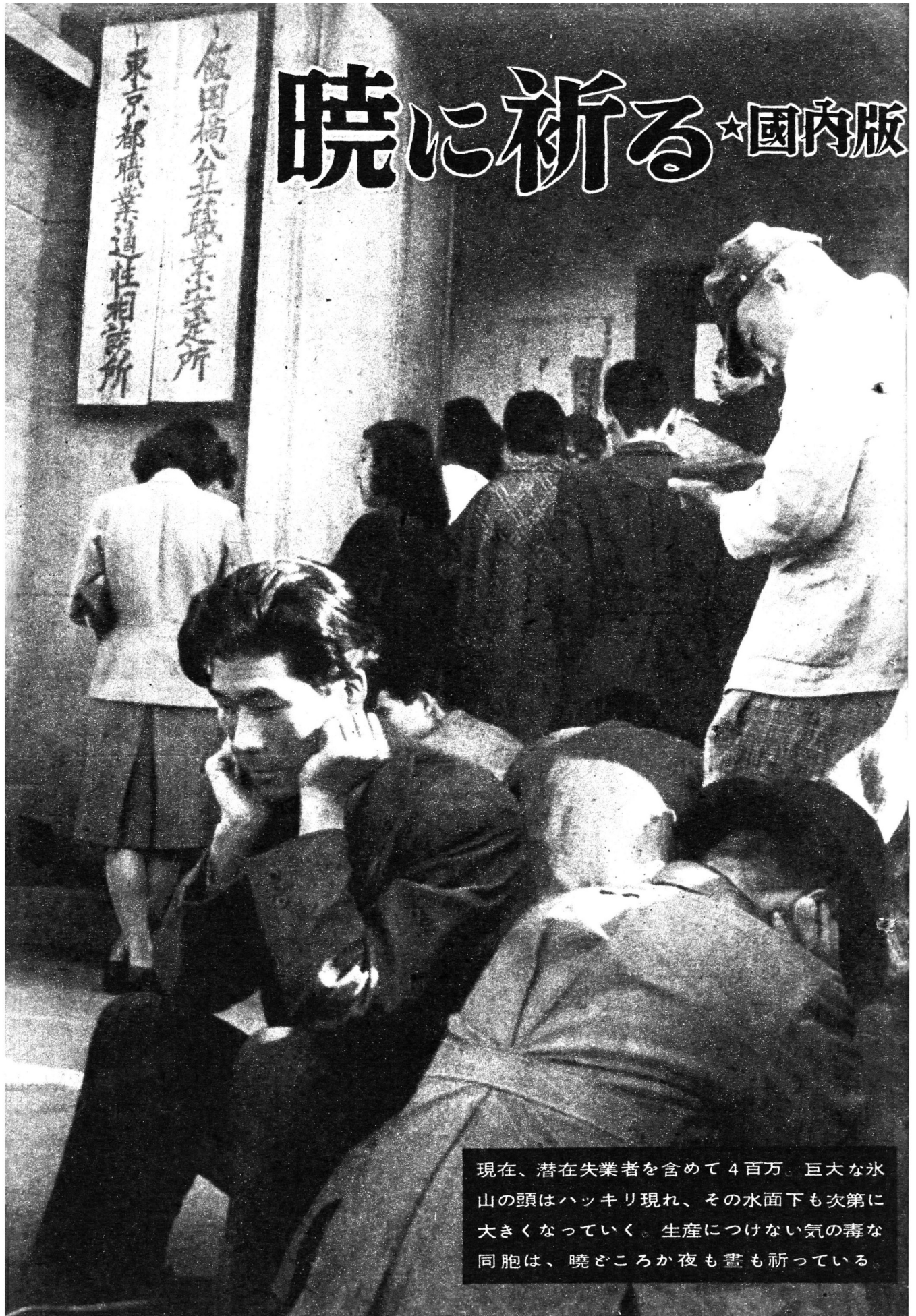
と山上おくらが、うたった時代にも、貴族の支配下では民衆が、子供を殺すか売る以外にない苦しい奴隷の生活をおくっていたのだ。この、奴隷制時代におこつた「人身売買」という、いたましい傳統から、今なお、民衆が解放されていないことをしめしたのが、福島の人買い事件である。

問題は、子供の売られている栃木縣から明るみにだされた。昨年十二月、労働基準局が、縣下の農村の実態調査をはじめたところ、驚くべきことに、関東の農村にいまに純然たる「農奴制」や「人買い」が存在し、長年の慣習により、多数の少年少女が農家の労働力として、年期奉公の名の下に、なかば公然と買入れられている事実が明らかにされた。

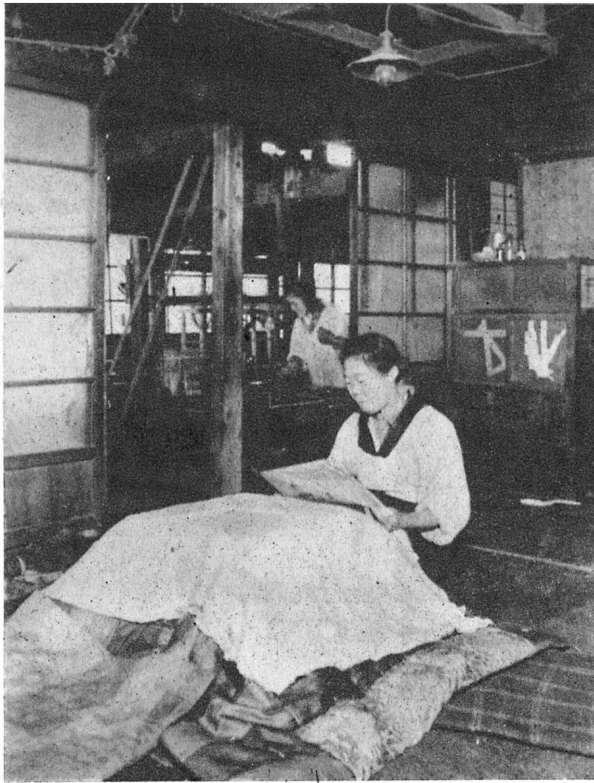
一方、この調査によってあげられた、悪周施屋鈴木安治を出した福島縣でも、子供を売った家の調査をはじめたが、これによると、売られた子供は九十二名のほり、売った親はみな、日雇、無職等月收二千円以下の生活困窮者で、しかも生活扶助料をうけていたのは四四名中四名しかない。子供は六七八人平均、一〇人という子沢山、いずれも、口が減つて、しかもまとまった金はいないなら……という具合で、一年五百円から四千円で売られている。売られた先は大たい富農で、小さな子は、はしり使いや子守り程度だが、大きくなれば、農事の働き手となる。農家からみれば、高い賃金をはらって労働者をやとうより、小僧上りの作男の方が安上りにつくわけだ。

この問題は、最近の金ずまりによる農村の不況が、ようやく深刻になって、東北の農家の子女の「身売り」が、古くして、

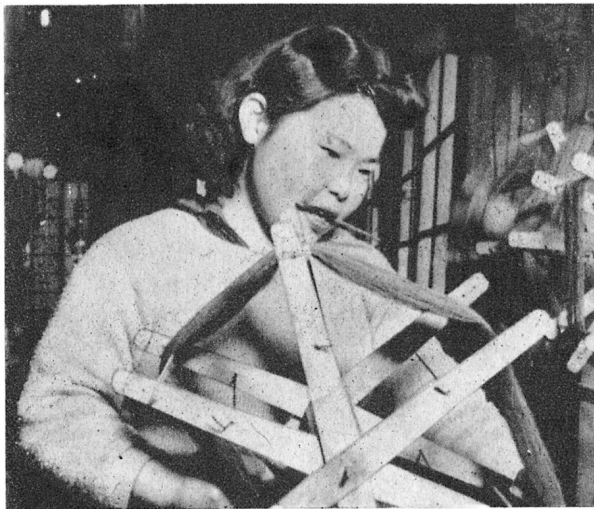
暁に祈る★国内版



現在、潜在失業者を含めて4百万。巨大な氷山の頭はハッキリ現れ、その水面下も次第に大きくなっていく。生産につけない気の毒な同胞は、暁どころか夜も晝も祈っている。



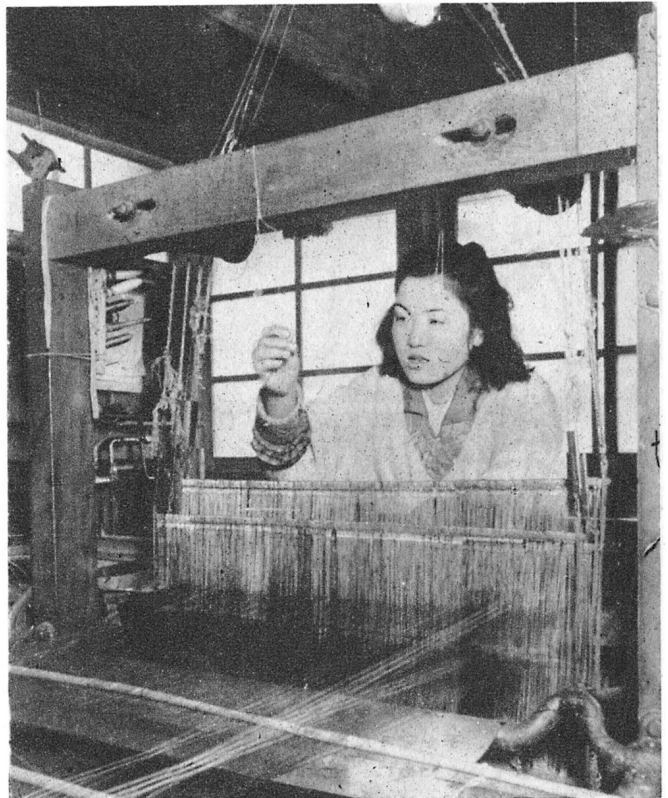
典型的な家内工場。住居の一部が機場になっている。こたつにあたっているのが、この家の主婦。



二人の女工さんは附近の農家の娘で、1年の契約で住みこんでいる。節電なので夜業はなく、おかげで労働時間は守られているようだが、たえまなく動く三台の機械の間を働きまわる彼女たちは、じつにいそがしそうである。

ハタオリ 機織女工

山梨縣の大月から富士山麓にかけての一帯は有名な甲斐絹織の産地であるが、その辺の工場はほとんど小さな家内工業で、女工も1名か2名というのが多く、今までは長期契約で女工と女中をかねて1日中働かされていた。今はいちおう労働基準法で守られるようになったが、労働組合もつぐれない彼女たちはまだまだ近代的な労働者ではない。



なお新しいものであることを、なまなましく示したものである。

身売る娘の歴史

娘の身売りといえば、女郎と女工だが、なかでも、女郎の歴史は長い。
江戸時代に「奥州白石噺」という、非常にあつた有名な芝居がある。
奥州白石のある貧しい百姓が、年々がおさめられないために、水牢にいれられて刑罰をうけた。そこで、この百姓の二人の娘のうち、姉が父をたすけるために吉原に身売りして、宮城野という、おいらんになった。何年かたつて、全盛をきわめている宮城野のもとへ、東北へ丸だしの娘が妹だといつてたずねてきた。くるわではこの言葉の通じない田舎娘が、宮城野の妹とは、なかなか信じなかったが、ようやくわかつて、二人はなつかしい対面をする。宮城野は、自分が身売って救った父親の安危をたずねると、妹の答は意外のことをもたらした。せっかく救われた父親は、田植えのさいに、通りかかった代官のはかまに、あやまって泥水をはねかけたために、その場で殺されてしまったというのである。あまりのことに宮城野は、悲嘆の涙にくれるが、やがて姉妹は、父のあだ討ちをこころざし、これをきいて感心した由比正雪が二人を助けて、めでたく親のかたきをとらせるという筋であるが、当時、この芝居はすばらしい評判になったといわれる。それは、このような話がどこにでもあったので、民衆の心をもっとよく、とらえたためであらう。
大名を相手にした、はなやかなおいらんも、みな年々にせめたてられる貧農の

生活から化膿性疾患を追いだそう

ペニシリン明治とは全ペニシリンを代表する言葉です
どうぞ平素から、ペニシリン明治の名を御記憶下さい

ペニシリン-明治

適應症 ★肺炎・脳膜炎・中耳炎・腹膜炎
産褥熱・猖狂熱・丹毒・火傷・破傷風
敗血症・性病その他化膿性疾患

明治製菓株式会社

東京都中央区京橋二ノ八

公定医薬品 明治滋養糖

牛乳に明治滋養糖を加えますと
味がおいしくなるばかりでなく
栄養もますます増加いたします
砂糖を加えた場合には下痢をお
ごすおそれがありますが明治滋
養糖はその心配がありません。

抗痲力を昂め栄養を増進する
強カビスラーゼ錠



相乗効果



製造元 東亞栄養化学株式会社

(公定医薬品強ビタミンB₂錠)
B₂を主剤としその他B₁・B₆・チアミン・ゼ、
乳酸菌、消化性蛋白を豊富に含有し之等
成分の相乗作用により強大なる栄養、消
化、抗痲力を發揮す。

ビタミンB ₂ 注射液	ビスラーゼ注射液
ビタミンB ₁ B ₂ 注射液	ビスラーゼ複合液
ビタミンB ₂ 複合体	ビスラーゼ錠・末

疲労恢復と栄養補給に

全国
有名薬店に有り



ヤシマ
強ビタミンB₁錠
(強カアクタミン錠)

製造発売元
八洲化学株式会社
東京都千代田区神田鍛冶町三丁目